

	【モーニング】 昭和の銀幕に輝くヒロイン	【メイン】 起きて転んでまた起きて 前田陽一の反マジメ精神喜劇ばらだいす				【レイト】 エクセシブフィルム35年の歩み	
4月	14[日]-16[火] 10:30-11:59 昨日消えた男	12:40-14:12 につぼん ばらだいす (92分)	15:30-16:53 ちんころ海女っこ (83分)	17:20-18:39 スチャラカ社員 (79分)	19:10-20:33 進め!ジャガーズ 敵前上陸 (83分)	4.11[木]-15[月] 21:00-22:01 巨乳熟女 本番仕込み (61分)	
	17[水]-20[土]	13:00-14:23 ちんころ海女っこ (89分)	15:00-16:19 スチャラカ社員 (83分)	17:00-18:23 進め!ジャガーズ 敵前上陸 (79分)	19:00-20:25 濡れた逢いびき (85分)	4.16[火]-20[土] 21:00-22:00 おひとりさま 三十路OLの性 (60分)	
	21[日]-23[火]	10:30-11:24 秀子の車掌さん	12:30-13:55 濡れた逢いびき (85分)	14:20-15:48 虹をわたって (88分)	17:10-18:33 喜劇 右むけエ左! (83分)	19:00-20:31 次郎長青春篇 つっぱり清水港 (91分)	4.21[日]-25[木] 21:00-22:00 小林ひとみ 抱きたい女 (60分)
	24[水]-27[土]	12:00-13:28 虹をわたって (54分)	14:00-15:23 喜劇 右むけエ左! (88分)	17:00-18:31 次郎長青春篇 つっぱり清水港 (83分)	19:00-20:31 土佐の一本釣り (91分)	4.26[金]-30[火] 21:00-22:04 人妻セカンドバージン 私を襲って下さい (64分)	
	28[日]-30[火]	(筑波久子) 10:30-11:59 肉体の反抗	12:30-13:58 喜劇 あゝ軍歌 (88分)	14:20-15:51 土佐の一本釣り (91分)	16:20-17:52 坊っちゃん (92分)	18:20-19:45 喜劇 昨日の敵は今日も敵 (85分)	
5月	1[水]-4[土]	13:00-14:32 坊っちゃん (89分)	15:00-16:25 喜劇 昨日の敵は今日も敵 (92分)	17:00-18:28 喜劇 男の子守唄 (88分)	19:00-20:27 喜劇 冠婚葬祭入門 (87分)		
	5[日]-7[火]	10:30-12:08 春泥尼 (98分)	13:30-14:58 喜劇 男の子守唄 (88分)	15:20-16:47 喜劇 冠婚葬祭入門 (87分)	17:10-18:42 三億円をつかまえろ (92分)	19:10-20:37 喜劇 家族同盟 (87分)	
	8[水]-11[土]	5.8 [水]-13 [月] 10:30-11:52 海女の岩礁	13:00-14:32 三億円をつかまえろ (92分)	15:00-16:27 喜劇 家族同盟 (87分)	17:00-18:30 喜劇 日本列島震度0 (90分)	19:00-20:31 新唐獅子株式会社 (91分)	
	12[日]-14[火]	(82分)	13:00-14:30 喜劇 日本列島震度0 (90分)	15:00-16:31 新唐獅子株式会社 (91分)	17:00-18:30 喜劇 大誘拐 (90分)	19:00-20:31 神様のくれた赤ん坊 (91分)	
	15[水]-18[土]	5.14 [火]-19 [日] 10:30-11:59 らぶれたあ 夜霧に消えたチャコ (40+49分)	12:30-13:58 喜劇 あゝ軍歌 (88分)	14:20-15:50 喜劇 大誘拐 (90分)	16:20-17:51 神様のくれた赤ん坊 (91分)	19:10-20:38 喜劇 あゝ軍歌 (88分)	

トークイベント

4月16日(火)
12:40 『につぼん ばらだいす』上映後
ゲスト 香山美子さん

4月21日(日)
14:20 『虹をわたって』上映後
ゲスト 日色ともゑさん

4月26日(金)
14:00 『喜劇 右むけエ左!』上映後
4月28日(日)
18:20 『喜劇 昨日の敵は今日も敵』上映後

ゲスト なべおさみさん

5月18日(土)
16:20 『神様のくれた赤ん坊』上映後
ゲスト 南部英夫さん

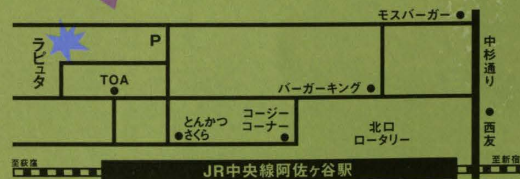
聞き手: 北里宇一郎さん(脚本家)

※料金: 1,700円均一 ※招待券はご利用いただけません。

【当日】

一般...1,400円 シニア・学生...1,200円
会員...1,000円 水曜サービスデー...1,200円均一

●各回定員入れ替え制 ●午前10時より当日の全回分の整理番号付き入場券を発売します。定員48名になり次第、締め切らせていただきます。●混雑状況により、販売開始時刻を早める場合がございます。●上映開始後10分を過ぎてのご入場はお断りさせていただきます。●作品により画像、音声が必要しも良好でない場合がございます。あらかじめご了承ください。



ラピュタ阿佐ヶ谷 TEL: 03-3336-5440



http://www.laputa-jp.com/
JR中央線阿佐ヶ谷駅北口徒歩2分
東京都杉並区阿佐ヶ谷北2丁目12-21



につぼん ばらだいす / ちんころ海女っこ / スチャラカ社員
濡れた逢いびき / 進め!ジャガーズ 敵前上陸 / 喜劇 あゝ軍歌
喜劇 冠婚葬祭入門 / 喜劇 右むけエ左! / 喜劇 昨日の敵は今日も敵
喜劇 男の子守唄 / 虹をわたって / 喜劇 日本列島震度0
三億円をつかまえろ / 喜劇 大誘拐 / 坊っちゃん / 神様のくれた赤ん坊
土佐の一本釣り / 次郎長青春篇 つっぱり清水港 / 喜劇 家族同盟
新唐獅子株式会社

協力: 松竹株式会社、東宝株式会社
キャグ株式会社、国立映画アーカイブ





前田陽一の反マジメ精神喜劇ばらだす

起きて転んで
また起きて

4.14 SUN
5.18 SAT

前田陽一は軍国少年だった。軍歌に郷愁を抱いた。その一方で、何もかも無くなってさっぱりした焼け跡の風景に憧れた。右翼とか左翼とか人間を区分けすることを嫌悪した。助監督時代は吉田喜重・大島渚についた。その政治的親的な芸術的立派さに脱帽しながら、もっと「遊び」があればなあと、かすかにぼやいた。監督になると、処女作を除いて自分の出した企画はことごとく潰される。会社から与えられたものはろくでもないものばかり。だったらその中で遊んでやろう！居直るように「反マジメ精神」を注入した喜劇を連発した。それが独特のアンアキーな笑いを生んだ。時として、あまりの脱力な展開に、これはもうダメかとあきらめかけた瞬間、ボンと弾けた笑いを炸裂させる時もあるから油断ならない。「私のちびけな誇りは文芸大作だけは作らないことである」——この言葉を座右の銘(?)にしなが、だらしなくて、こっけいで、いとおいしい人間たちを蠢めさせた。

text by 北里宇一郎 (脚本家)

にっぽんばらだす 4.14[日]-16[火]

1964年(S39) / 松竹大船 / 白黒 / 92分



■脚本:前田陽一 / 撮影:竹村博 / 美術:森田郷平 / 音楽:山本直純 ■出演:香山美子、ホキ徳田、加賀まりこ、勝呂誉、水科慶子、益田喜頓、加東大介、長門裕之

この脚本が認められて監督に昇進。最終から赤線廃止、その十二年間にわたるある遊郭の群像劇。パイタリテイ溢れる娼婦たち、その一方に赤線に殉じる純真な女、と人物描写は複眼的。時流に合わせて言動が変わる経営者の息子が秀逸。処女作で傑作を。

ちんころ海女っこ 4.14[日]-20[土]

1965年(S40) / 松竹大船 / カラー / 83分



■原案:富永一朗 / 脚本:石堂淑朗、前田陽一 / 撮影:小原治夫 / 美術:佐藤公信 / 音楽:山本直純 ■出演:中村見子、ホキ徳田、扇町京子、春川ますみ、南道郎、左ト全 島を日本のハワイにと目論む男たち。それに反対する海女軍団。色と欲がからんでの攻防戦は、当時大島渚組だった石堂脚本と相まって猥雑な面白さが。運動会は市川崑、情事場面はゴダールとパロディ精神も楽しい。新人中村見子の初々しい肢体が眩しく。

スチャラカ社員 4.14[日]-20[土]

1966年(S41) / 松竹 / カラー / 79分



■原作:香川登志緒 / 脚本:若井基成、前田陽一、沢田隆治 / 撮影:竹村博 / 美術:今保太郎 / 音楽:萩原哲晶 ■出演:長門勇、ミヤコ蝶々、中田ダイマル、中田ラケット

当時の大人気TV番組の映画化。東宝榎本等喜劇と対照的に、こちらは最底辺の会社(社屋が屋上!)で悪戦苦闘の社員たちの姿がコミカルに。にぎやかな関西お笑い芸人たちの顔ぶれも懐かしい。突如はじまる大阪独立国の挿話に前田監督の面目が躍如!

進め! ジャガーズ 敵前上陸 4.14[日]-20[土]

1968年(S43) / 松竹 / カラー / 83分



■脚本:中原弓彦、前田陽一 / 撮影:竹村博 / 美術:佐藤公信 / 音楽:いずみたく ■出演:ザ・ジャガーズ、中村見子、尾崎奈々、てんぷくトリオ、南道郎、三遊亭圓楽 ビートルズ「HELP!」をベースにしたナンセンス喜劇。中原弓彦(小林信彦)が脚本協力。007、「第三の男」、レオーネ、ゴダールと映画パロディ満載。後半、突如日本兵の生き残りが登場。途端、戦争映画と化するのに唖然。終幕まで遊び精神横溢。

濡れた逢いびき 4.17[水]-23[火]

1967年(S42) / 松竹 / 白黒 / 85分



■原作:土屋隆夫 / 脚本:野村芳太郎、吉田剛 / 撮影:加藤正幸 / 美術:重田重盛 / 音楽:山本直純 ■出演:加賀まりこ、田辺昭知、谷幹一、山東昭子、大泉滉、左ト全 現・芸能プロダクション会長、この頃ザ・スパイダースのリーダーの田辺昭知の貴重な主演作。相手役は当時お付き合いのあったまりこ嬢。エロティックな田園喜劇と思いきや、次第に毒薬をめぐるサスペンスと化して。さて生き残るのはどっち?のハラハラが。

虹をわたって 4.21[日]-27[土]

1972年(S47) / 松竹 / カラー / 88分



■脚本:田波靖男、馬嶋満 / 撮影:竹村博 / 美術:佐藤公信 / 音楽:森岡賢一郎 ■出演:天地真理、沢田研二、萩原健一、岸部シロー、日色ともゑ、財津一郎、有島一郎 ダルマ船に起居する労働者たちの中にアイドル真理ちゃんが舞い降りて。「白雪姫」をベースに繰り広げられるメルヘン喜劇と思いきや随所に苦い調味料が。キャブラ的趣向、白馬の王子ジュリーのズッコケぶり、そして日色が真理を背負って歩く場面の鮮烈さ。

喜劇 右むげ左! 4.21[日]-27[土]

1970年(S45) / 渡辺プロダクション / カラー / 83分



■脚本:石松愛弘、高島久、前田陽一 / 撮影:梁井潤 美術:小島基司 / 音楽:山本直純 ■出演:堺正章、なべおさみ、井上順之、ザ・タイガース、吉沢京子、犬塚弘 渡辺プロの社長に喜劇センスを見込まれて東宝に。女性下着会社のダメ社員たちが自衛隊に体験入隊。猛訓練を受けるが、全然更生しないのが嬉しい。会社では死んでる部長が入隊した途端、がぜん張り切るのがケツサク。犬塚弘快演! 結末はギョギョッ。

次郎長青春篇 つっぱり清水港 4.21[日]-27[土]

1982年(S57) / 松竹 / カラー / 91分



■脚本:前田陽一、南部英夫 / 撮影:長沼六男 / 美術:重田重盛 / 音楽:田辺信一 ■出演:中村雅俊、島田紳助、明石家さんま、佐藤浩市、平田満、原田大二郎、田中好子 今や大物となった男優、お笑い芸人たちの若き日の姿が祝福。次郎長売り出しのこの映画、同時に彼らの売り出し青春篇でもあった。大詰め、三木のり平老親分が一家・系列組の面々を多数引き連れ大喧嘩の現場に到着。さてそれからが、これぞ前田調!

土佐の一本釣り 4.24[水]-30[火]

1980年(S55) / 松竹・キティ・フィルム / カラー / 91分



■原作:青柳裕介 / 脚本:前田陽一、松原信吾 / 撮影:長沼六男 / 美術:重田重盛 / 音楽:川辺真 ■出演:加藤純平、田中好子、蟹江敬三、樹木希林、穴戸錠、加藤武 併映の『寅次郎かもめ歌』のマドンナが伊藤蘭。こちらのヒロインがスーちゃん。キャンディーズ二本立だった。ツッパリ見習い漁師とツッパリ者の女子高生の初恋に、前田監督は父親的視線を注ぐ。東映からあの方々も登場。途端に画面に緊張が走る。

喜劇 あゝ軍歌 4.28[日]-30[火]・5.15[水]-18[土]

1970年(S45) / 松竹 / カラー / 88分



■原作:早坂暁 / 脚本:前田陽一、満友敬司 / 撮影:加藤正幸 / 美術:芳野尹孝 / 音楽:大森盛太郎 ■出演:フランキー堺、財津一郎、倍賞千恵子、大村崑、北林谷栄 軍歌を愛する前田の本領発揮喜劇。靖国神社で、祀られぬ息子の無念を吐く老婆。兵役逃れのニセ精神病患者。そして終戦記念日に、かの神社の賽銭泥棒を企てるフランキーと仲間たち。軍歌は登場人物の心情を鼓舞し、悲嘆し、息づく。中期の代表作。

坊っちゃん 4.28[日]-5.4[土]

1977年(S52) / 松竹・文学座 / カラー / 92分



■原作:夏目漱石 / 脚本:前田陽一、南部英夫 / 撮影:竹村博 / 美術:梅田千代夫 / 音楽:佐藤勝 ■出演:中村雅俊、松坂慶子、大滝秀治、荒木道子、米倉斉加年 数多く作られた「坊っちゃん」映画の今のところ、これが最終作。山嵐との男の友情が強調されている。無理やり転動させられるうらなりがボンボン唄う鉄道唱歌。マドンナから感謝の言葉を告げられ、フクザツな表情の赤シャツ。前田独特のタッチが随所に。

喜劇 昨日の敵は今日も敵 4.28[日]-5.4[土]

1971年(S46) / 渡辺プロダクション / カラー / 85分



■脚本:石松愛弘、前田陽一 / 潤色:鴨下信一 / 撮影:梁井潤 / 美術:樋口幸男 / 音楽:山本直純 ■出演:堺正章、いかりや長介、なべおさみ、吉沢京子、范文雀、紀比呂子 東宝二作目。箱根小涌園タイアップ映画。大学応援団と軟派学生の対立に女子大空手部が絡んでのドタバタは脱力。が、箱根独立を企てる策士が登場した途端、映画が活気づく。制約を逆手にとった前田喜劇の逞しさ。知性派俳優平田昭彦の怪演に驚愕!

喜劇 男の子守唄 5.1[水]-7[火]

1972年(S47) / 松竹 / カラー / 88分



■脚本:田坂啓、満友敬司、前田陽一 / 撮影:竹村博 美術:佐藤公信 / 音楽:山本直純 ■出演:フランキー堺、倍賞美津子、生田悦子、ミヤコ蝶々、京泉子、森川信 高度経済成長下の東京の風景に、終戦直後に流行した「東京ブギウギ」が鳴り響く。何もかも消滅した焼け跡風景に焦がれた前田の心情が反映され、戦後日本への批評ともなっている。孤児を拾って育てるちんどん屋のお話は、城戸社長好みの人情味。

喜劇 冠婚葬祭入門 5.1[水]-7[火]

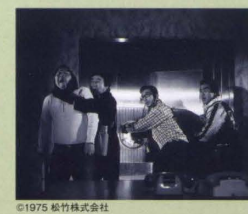
1970年(S45) / 松竹 / カラー / 87分



■原作:塩月弥栄子 / 脚本:宮川一郎、前田陽一 / 撮影:荒野諒一 / 美術:芳野尹孝 / 音楽:木下忠司 ■出演:三木のり平、倍賞美津子、ちあきなおみ、由利徹、森光子 塩月弥栄子のベストセラー・ノウハウ本の映画化。定年間際の冴えない社員が会社の冠婚葬祭になると張り切りだす。この男がお年頃の娘と二人暮らしというのが松竹家庭劇の定番。葬式と結婚式が同日同時刻に開催、参列者が右往左往の大混乱の場が抱腹。

三億円をつかまえろ 5.5[日]-11[土]

1975年(S50) / 松竹 / カラー / 92分



■脚本:菊島隆三 / 撮影:丸山恵司 / 美術:佐藤公信 音楽:山本直純 ■出演:有島一郎、長門勇、谷村昌彦、渡辺篤史、伊佐山ひろ子、財津一郎、由利徹、三木のり平 三億円事件時効成立の話題に乗ったドロボー喜劇。例によってショボくれたおっさんたちが団結。農協の大金庫を狙う。赤ん坊同伴というのが笑いと緊張を生んでいる。大御所菊島隆三脚本はガッチリ。その隙間を抜って、のり平・財津の怪演が場面を盗む。

喜劇 家族同盟 5.5[日]-11[土]

1983年(S58) / 松竹 / カラー / 87分



■脚本:中島丈博 / 撮影:長沼六男 / 美術:芳野尹孝 音楽:田辺信一 ■出演:中村雅俊、中原理恵、川谷拓三、中尾ミエ、佐藤日作、平田満、ミヤコ蝶々、有島一郎 「万引き家族」に先駆けた、血の通わぬ者同士の家庭劇。とはいえ、中島丈博の脚本には屈折した味わいが。当時、TVで人情味溢れる好人物を連投していた川谷拓三が、東映実録路線時代に戻ったように暴れまくる。前田作品としては異色の肌ざわり。

喜劇 日本列島震度0 5.8[水]-14[火]

1973年(S48) / 松竹 / カラー / 90分



■脚本:前田陽一、南部英夫、吉田剛 / 撮影:竹村博 美術:芳野尹孝 ■出演:フランキー堺、石橋正次、鳥居恵子、日色ともゑ、谷村昌彦、三遊亭圓右、財津一郎 「日本沈没」に対抗して作られたパニック(?)喜劇。普段は地味だが防災訓練になると張り切るフランキーはもはや前田映画の定番。今回は古い師・日色とのロマンス模様も。運命の日前夜に、灰田勝彦(本人登場!)が歌う「東京の屋根の下」が沁みる。

新唐獅子株式会社 5.8[水]-14[火]

1999年(H11) / GAGA PICTURES / カラー / 91分



■協力監督:南部英夫、長濱英高 / 原作:小林信彦 / 脚本:前田陽一、北里宇一郎 / 撮影:満井坦彦 / 音楽:尾形真一郎 ■出演:赤井英和、つみきみほ、永島敏行、鷹希児 小林信彦のヤクザ・パロディ小説を自由に脚色。この映画の撮影中に監督は肝不全で死去。前田を敬愛する南部英夫・長濱英高が遺志を引き継ぎ完成させた。八百長に加担したせいで、人生ががらりと変わった元野球選手に前田は自分の想いを込めている。

喜劇 大誘拐 5.12[日]-18[土]

1976年(S51) / 松竹 / カラー / 90分



■原案:吉田進 / 脚本:瀬川昌治、永井素夫、前田陽一 撮影:吉川憲一 / 美術:熊谷正雄 / 音楽:いずみたく ■出演:森田健作、ミヤコ蝶々、夏純子、岸部シロー 誘拐されたお婆ちゃんが犯人たちと共謀して身代金をせしめる。という基本設定は天藤真の同題小説、その映画化の岡本喜八作品と類似。が、小説よりこちらは二年早い。ダメ男たちの誘拐団の名称は、当時大ヒットのあの歌を。喜八版と見比べるのも一興。

神様のくれた赤ん坊 5.12[日]-18[土]

1979年(S54) / 松竹 / カラー / 91分



■脚本:前田陽一、南部英夫、荒井晴彦 / 撮影:坂本典隆 / 美術:森田郷平 / 音楽:田辺信一 ■出演:桃井かおり、渡瀬恒彦、吉行和子、嵐寛寿郎、曾我廼家明蝶 「集金旅行」のリメイク。身寄りのなくなった男の子の慰謝料を集めるという基本線は同じだが、父親探し、それに桃井のルーツ探しの要素も加えて、秀逸なロード・ムービーに。渡瀬、桃井、荒井脚本と、新しい顔ぶれが前田映画を刺激。後期の代表作。